

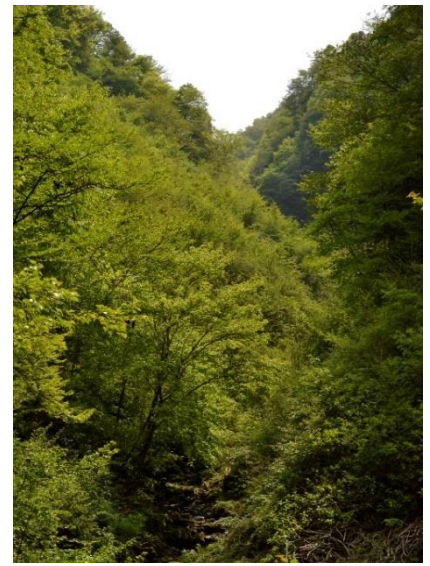
あきる野の自然は素晴らしい。その理由の一つは、様々な環境が存在することで、生物多様性の高い自然に繋がっているからです。

今回は、あきる野の代表的な環境を紹介します。

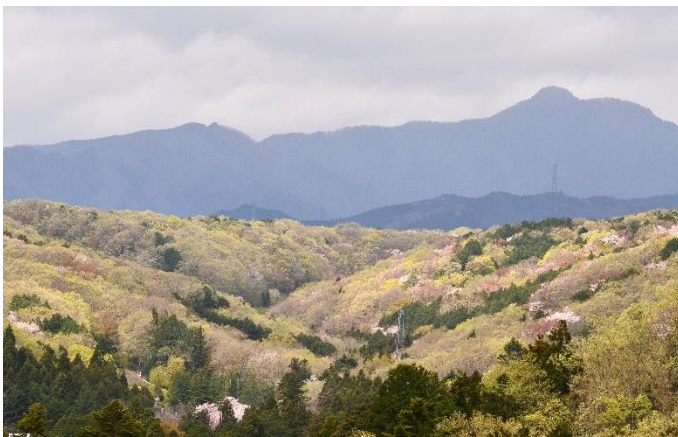


あきる野西部では、標高1000m前後の山々が存在し、大部分は森林となっています。その森林のほとんどはスギやヒノキ植林で、60年も成長し続けている立派な針葉樹林が見られます。その中には、若い植林も、中年の植林もあり、それぞれの成長段階で生まれる環境は多様で自然の質は高いと言えます。

「森を切る」という言葉は、一般的にあまり良いイメージがありませんが、間伐や伐採をすることで、森の転換に繋がりますし、開放的な環境を好む動植物にも好条件な空間となります。近年林業が再び活発化し、あきる野の自然の質の向上に大きく貢献しています。



奥山の急斜面や険しい沢筋では、スギやヒノキ植林が行われなかったことで、現在は自然に近い状態の広葉樹林が残り、あきる野の様々な希少種の住処となっている場所が多い森林です。



菅生丘陵が広がる風景の中で、大岳山を含む馬頭刈尾根が背景になっています。

このエリアは雑木林が多く、コナラやヤマザクラなどが目立ちます。あきる野に生息する昆虫の宝庫でありとても豊かな自然があります。



水田や谷戸田などが減少し続けるなかで、あきる野には秋川や平井川の河川敷を中心に田んぼが残っています。この環境がなければ、両生類をはじめとして多くの生き物が生息できなくなることとなります。昔ながらの日本の農地を大切にしていかなければなりません。



秋川や多摩川の豊かな流れや河川敷の中には、非常に多くの魚類や小動物が生息しています。植物も豊富で、冬は野鳥の楽園となる場所でもあります。この河川敷は人がよく訪れる場所ですが、健康や癒しの目的を超え、自然環境にとって重要な役割を担っていることに気づく人は、まだまだ少ないと感じます。

(パブロ)

このような、あきる野の豊かな自然が今後も残るよう皆様のご協力をお願いします。



第5期コレンジャー終了式

第5期が3月に終了式を迎えました。今日の目的は「ビオトープ整備で切った木を使う」。炭焼きと工作です。炭は大成功とはいきませんでした。できた炭を少しずつ持ち帰ることができました。

午後、保護者の方をビオトープに案内した後、終了式で一年間のふりかえりを発表しました。年9回と少ない活動でしたが、最後にはみんなとても仲良くなりましたね。そんなみんなの真ん中には「自然が好き」という共通の気持ちがあることを、ふんわりと感じた1年の締めくくりとなりました。

みんな1年間ありがとう！！



乾燥させておいた材を運んできて、窯に入る大きさに切るよー



風を送るぞー



番外編～夜の森～

10月の振替えとして夜の森活動を実施しました。

出発前、夜の森に入るにあたって「野生動物」「自分たちの行動」について学んでから目的地へ向かいました。

音をたてずにただじっとしていると、様々な音が聞こえてきました。1時間以上寒さにたえながら夜の森を見つめ続けていると…ムササビが巣穴から出現！誰一人騒がず動かずじっと観察していました。しばらくして風が吹き始めると、それを待っていたかのようにムササビは姿を消しました。

「夜の森におじゃましている」という気持ちで静かに下山するみんなの背中がライトに照らされていました。

ムササビが暮らす環境や行動を少し知る「自分の身体と心で感じた体験」となったのではないのでしょうか。

保護者のみなさんと整備！

夜の森活動の次の日。有志の保護者の方と6年生リーダーとで昔道の整備を行いました。みんなの手が加わった昔道とビオトープへの道&階段の完成！ご協力いただいた皆さま、お忙しい中ありがとうございました！！このルートは今後、市内小学校の体験学習で利用していきます。そして、まだまだ整備は続きますよ～♪



コレンジャー活動も今年で6年目となり、5月に6期の活動が始動します。新たな仲間・自然の中でどんな出会いがあるのでしょうか。楽しみです！

(加瀬澤)